

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	国語 1	
科目基礎情報							
科目番号	101110			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	前期:2 後期:4		
教科書/教材	精選国語総合 (東京書籍) / 国語要覧 (大修館書店)、ジャンプアップ高校漢字問題集 [改訂版] (東京書籍)						
担当教員	森長 新, 一色 誠子						
到達目標							
1. 現代文の評論を読み、基本的な読解力を身につけ、考えを表現できる。 2. 現代文の文学作品の内容を理解し、感想を口頭あるいは文章で表現することができる。 3. 古文に触れ、感性を育み、語彙、文法の基本的な知識を身につける。 4. 漢文に触れ、感性を育み、訓読の基本的な知識を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	内容を理解し、自分の考えを表現できる。			内容を理解できる。		内容を理解できない。	
評価項目2	内容を理解し、感想を表現できる。			内容を理解できる。		内容を理解できない。	
評価項目3	内容を読み取ることができる。			文法事項を理解している。		音読することができる。	
評価項目4	内容を読み取ることができる。			漢文訓読の方法を理解している。		漢文訓読の方法を理解している。	
学科の到達目標項目との関係							
教養 (D) コミュニケーション能力 (E)							
教育方法等							
概要	あらゆるジャンル、あらゆる時代の優れた文章を読み、基本的な読解力を身につけ、自分の考えや感想をもち、発表する力を養い、さらに書く力 (表現力) をも養う。同時に古文と漢文、近現代の文学作品に触れることで豊かな感性を育み、自ら進んで文学作品に接する気持ちを高める。						
授業の進め方・方法	現代文、古文、漢文ともに事前に本文に目を通しておくこと。古文、漢文は中学校での学習を前提とするが、必要な事項は復習をするので、「国語2」につながるようしっかりと学習すること。国語はあらゆる学問の基礎となるものであることを自覚し、読解力や表現力の向上に努めて欲しい。また、古文や漢文に直接触れることができる力を修得する努力をしてもらいたい。夏休みには読書感想文を書くことを課すが、その基本は多くの本を読むことであることを意識して取り組んで欲しい。						
注意点	ノートは必ずとること。 平常点になる漢字テストや提出物はしっかりとやること。						
本科目の区分							
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧(p.9)に記載する「④選択科目」である。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	随想 「届く言葉」		1		
		3週	随想 「届く言葉」		1		
		4週	評論 1 「今ここにある無数の未知」		1		
		5週	評論 1 「今ここにある無数の未知」		1		
		6週	評論 1 「今ここにある無数の未知」		1		
		7週	中間試験				
		8週	試験返却				
	2ndQ	9週	小説 1 「羅生門」		2		
		10週	小説 1 「羅生門」		2		
		11週	小説 1 「羅生門」		2		
		12週	小説 1 「羅生門」		2		
		13週	小説 1 「羅生門」		2		
		14週	小説 1 「羅生門」		2		
		15週	小説 1 「羅生門」		2		
		16週	期末試験				
後期	3rdQ	1週	評論 2 「欲望と科学」 古文入門 「児のそら寝」		1,3		
		2週	評論 2 「欲望と科学」 古文入門 「児のそら寝」		1,3		
		3週	評論 2 「欲望と科学」 古文入門 「児のそら寝」		1,3		
		4週	評論 2 「欲望と科学」 古文入門 「児のそら寝」		1,3		

		5週	詩歌 「冬が来た」「汚れつちまつた悲しみに……」等 漢文入門 「訓読の基本」	2,4
		6週	詩歌 「冬が来た」「汚れつちまつた悲しみに……」等 漢文入門 「故事成語 推敲」	2,4
		7週	詩歌 「冬が来た」「汚れつちまつた悲しみに……」等 漢文入門 「故事成語 推敲」	2,4
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	小説3 「富嶽百景」 歌物語 「伊勢物語 東下り」	2,3
		10週	小説3 「富嶽百景」 歌物語 「伊勢物語 東下り」	2,3
		11週	小説3 「富嶽百景」 歌物語 「伊勢物語 東下り」	2,3
		12週	評論4 「生物の多様性とは何か」 寓話 「借虎威」「漁夫之利」等	1,4
		13週	評論4 「生物の多様性とは何か」 寓話 「借虎威」「漁夫之利」等	1,4
		14週	評論4 「生物の多様性とは何か」 日記と随筆 「土佐日記」	1,3
		15週	評論4 「生物の多様性とは何か」 日記と随筆 「土佐日記」	1,3
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
			日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	

				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0